

活用事例	3 5 10 授業中に大雨による避難勧告が発令され、その上、地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難及び保護者への引き渡し訓練 【特色】大雨による避難後に地震が発生する災害想定、保護者への引き渡し訓練		
学校名	長門市立浅田小学校		
日時	平成25年12月20日（金） 9：25～10：10		
場所	体育館	参加者	児童・教職員

1 訓練のねらい

- 大雨、地震・津波発生を想定した避難を通して、地震の怖さを知り、安全で適切な対応の仕方を身に付けさせるとともに、緊急時の集団行動の大切さを理解できるようにする。
- 児童を安全に避難させると共に、確実に保護者に引き渡す対応の仕方を理解し、緊急時に適切な行動ができるようにする。

2 訓練の概要

□ 事前指導（各教室）

- 学年や個々に合わせ、事前指導を十分する。（危険性や避難の仕方等）

※赤白帽着用

※机の下に避難（机の脚を対角に持ち、頭を机の下に入れる）→【今回は各教室で練習のみ】

- 集団行動の重要性を再度指導するとともに、「**おさない・はしらない・しずかに・もどらない**」を徹底させる。

9:32 支所よりFAX「避難勧告発令」着 ※連携〈事務〉

テレビ、PCによる情報収集、学校周辺の目視による状況把握（浅田川）
〈事務〉



校長判断

9:34 **一次避難（体育館）開始**

訓練・訓練！！

大雨により三隅川があふれそうです。児童の皆さんは、先生の指示に従って体育館に避難しなさい。〈教頭〉

放送後、教室後方や廊下に無言で整列。

- 電気製品の電源を切る。（ストーブ使用時は、消火）
- 保健室の児童は、養護教諭が避難誘導する。
- 窓を閉める。（救助のため、カーテン・鍵・ドアは開けたまま）
- 帽子をかぶり避難を開始する。（防寒のため上着を着せて、何も持たず、そのまま避難。）

※避難の地域住民のため、来客玄関を解放し、玄関横、廊下に靴置き場を設置。〈事務〉



その後、非常時持ち出しを体育館に持参する。〈事務〉

9:34 体育館へ移動（全校朝会の隊形）

- 人数と異常の有無を確認（出席簿等で確認）し、報告する。

担任 → 校長

〇年、報告します。在籍〇名、欠席〇名、現在数〇名、全員避難しました。異常ありません。〈担任〉

「児童一次避難完了」を災害対策本部（来校の三隅支所職員）に報告〈教頭〉

9:40 **一次避難（体育館）完了**

※避難のため来校の地域住民を、来客玄関より誘導。〈教頭〉

今後の訓練内容の指示〈生徒指導〉

- ・地震発生、体育館の場合、中央に集まり、頭を両手で抱え体を低くする。

9:46 大雨の中、地震発生

- ・放送で地震速報の音を流す。〈教頭〉
- ・体育館中央に児童を集め、身を守る態勢にする。〈生徒指導主任〉

支所職員より「避難命令発令」



校長判断



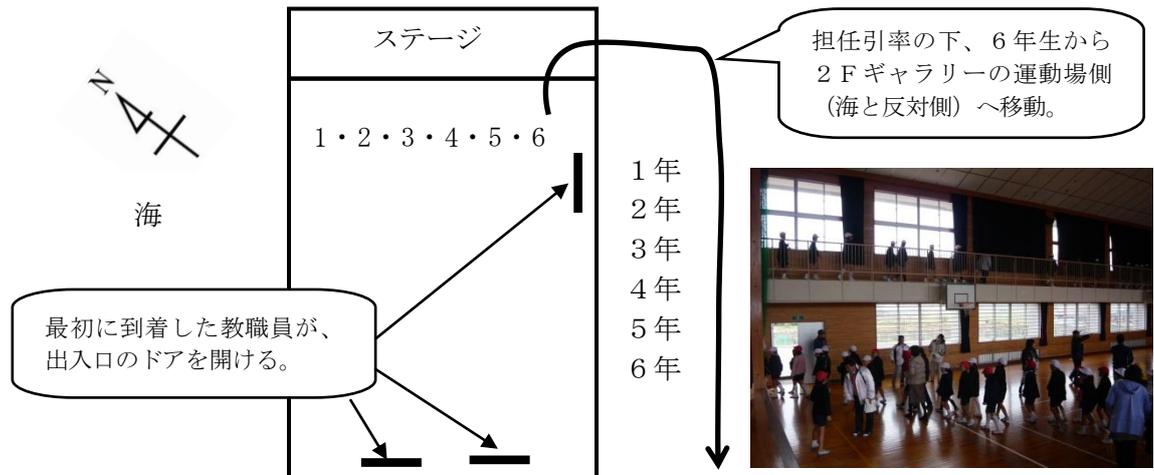
9:46 **二次避難（体育館ギャラリー）開始**

訓練・訓練！！

地震はおさまりましたが、津波警報が出されました。児童の皆さんは先生の指示に従い、2階ギャラリーにあがって避難しなさい。〈教頭〉

2Fギャラリーへの移動

- ・6年生から順に2Fギャラリーへ移動。〈生徒指導主任〉



※避難の地域住民は、教頭誘導の下、ステージへ移動する。〈教頭〉

9:50 「児童二次避難完了」を災害対策本部（来校の三隅支所職員）に報告〈教頭〉

二次避難（体育館ギャラリー）完了

- ・避難完了後、周囲の安全を確認〈教頭〉し、校長判断により、ステージに移動する。

9:52 保護者へ避難完了、児童引き渡し依頼のメールを職員室から配信〈教頭〉

訓練！大雨・地震発生により、児童は浅田小学校体育館に避難しています。全員無事です。保護者の皆様は、児童を学校まで迎えに来てください。学校への電話は通じないことがありますので、ご注意ください。浅田小学校

9:54 ステージ上で、保護者への引き渡しに向けて登校班に並び替え〈生徒指導主任〉

- ・引き渡し表の活用 〈別紙〉

- ・地区（家庭）ごとに並び、引き渡しの準備をする。
 〈地区別：地区担当〉 ※地区子ども会ファイルに地区別連絡網あり
 〈引き渡し総括：教頭〉

- 9:58 気づきと講評
- 消防本部
 - 市役所危機管理課
 - スクールガード・リーダー



- 10:03 校長先生の話



※訓練のため引き渡したことを想定し、児童は各教室に戻る。
「児童、保護者引き渡し完了」を災害対策本部（来校の三隅支所職員）に報告〈教頭〉

3 訓練の成果と課題

【成果】

昨年実施した避難訓練では、大雨の際、学校から他の場所に逃げるということが避難の主たる目的であった。しかし、現実的に考えるならば、小学1年生が暴風雨の中、増水した川岸沿いを傘をさして避難することは、危険きわまりない。そこで、地域の方・保護者・学校職員を交えた学校運営協議会において、より適切な緊急避難について協議する機会を設けた。その結果、本校は地域の緊急避難場所にも指定されており、他に避難するよりも学校にとどまる方が安全であるという結論に至った。そこで、今回のようにあえて本校にとどまり、安全を確保しつつ児童を保護者に確実に渡す方法で避難訓練を実施した。

訓練を終え、児童には避難の大切さ、自分の命は自分でも守ること、周りの人と協力することの大切さを感じ取ることができたようである。また、教職員も非常時における避難の誘導の仕方、自分の役割を確認することができた。

【課題】

今回の訓練は避難開始を授業中の教室に設定したが、休み時間など児童が教室外にいるときや学校の管理下でないときに非常事態が発生した場合の避難訓練の重要性を感じている。従って、休み時間の各居場所からの避難経路や教職員の役割分担等について確認しておかなければならない。また、実際の災害時では、児童も教職員も共に自分で状況を把握・判断し、行動する力が必要となり、そのような力を日常の学校生活全般を通して育成することが今後の課題である。